

「上サロベツ自然再生事業」とは?

サロベツ湿原では、多様な人間活動の影響により湿原の減少や劣化が進んでいます。このため、「湿原と農業の共生」を目指して地域の多様な主体が協力して自然再生の取り組みを進めています。

● サロベツ湿原

湿原の特徴

サロベツ湿原は低地における日本最大の高層湿原です。

高層湿原とは

長い年月をかけて泥炭が蓄積され、周囲よりも高くなつたために、雨水(雨・雪・露)によって涵養されている湿原を指します。植生はミズゴケ類が主体となります。

湿原の特徴

- 多様な動植物生息地・生育地(植物は550種以上、水鳥の繁殖地・渡りの中継地)
- 高山植物が平地に生育(寒冷で水分が多く、貧栄養)

湿原の価値

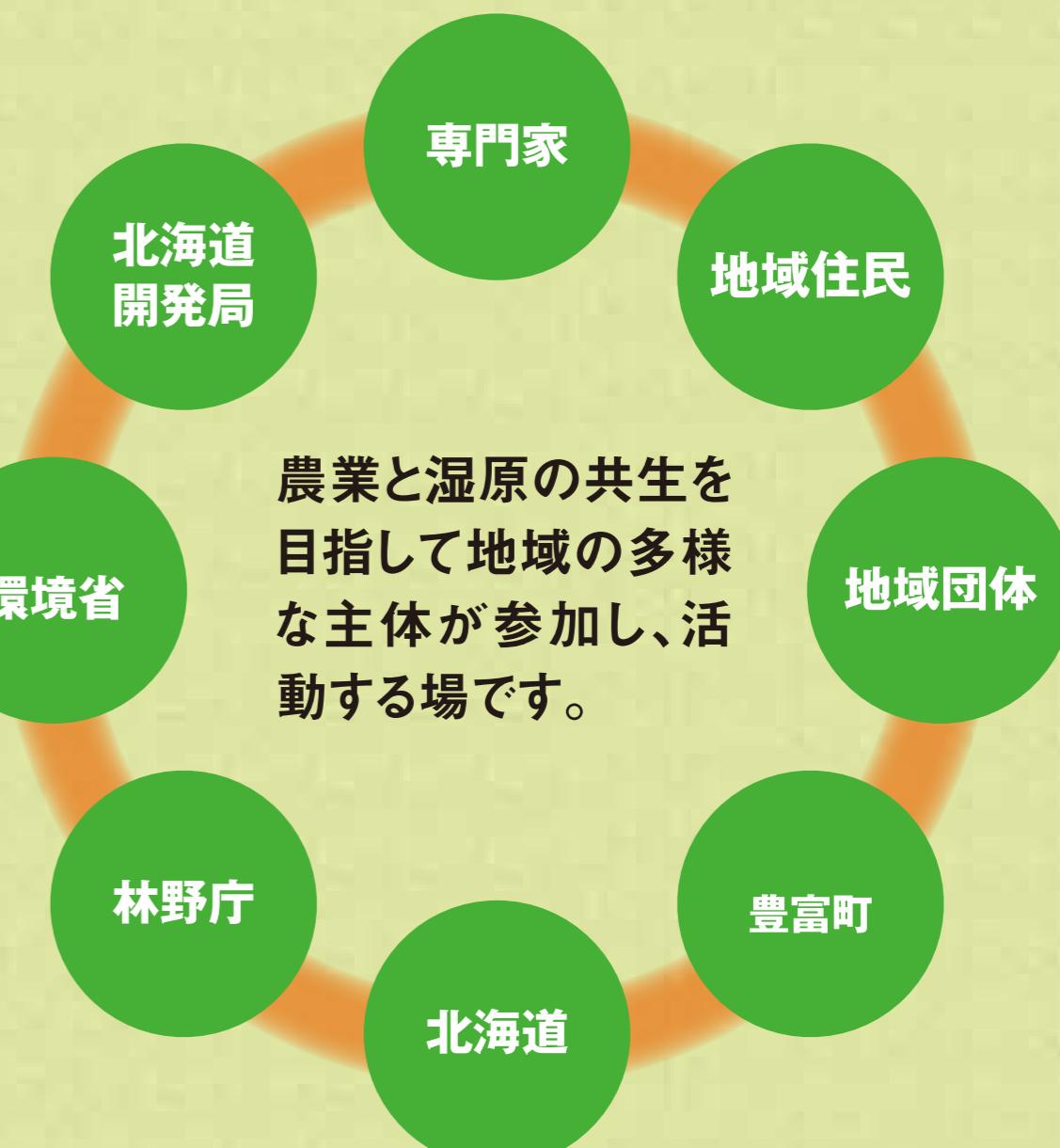
- 1974年 利尻礼文サロベツ国立公園指定
- 2005年 ラムサール条約湿地登録



サロベツ湿原は生物多様性に富んだ豊かな自然環境があり、近年は炭素の貯蔵庫としても注目されています。将来に渡り残していくかなければならない貴重な財産です。

● 上サロベツ自然再生協議会

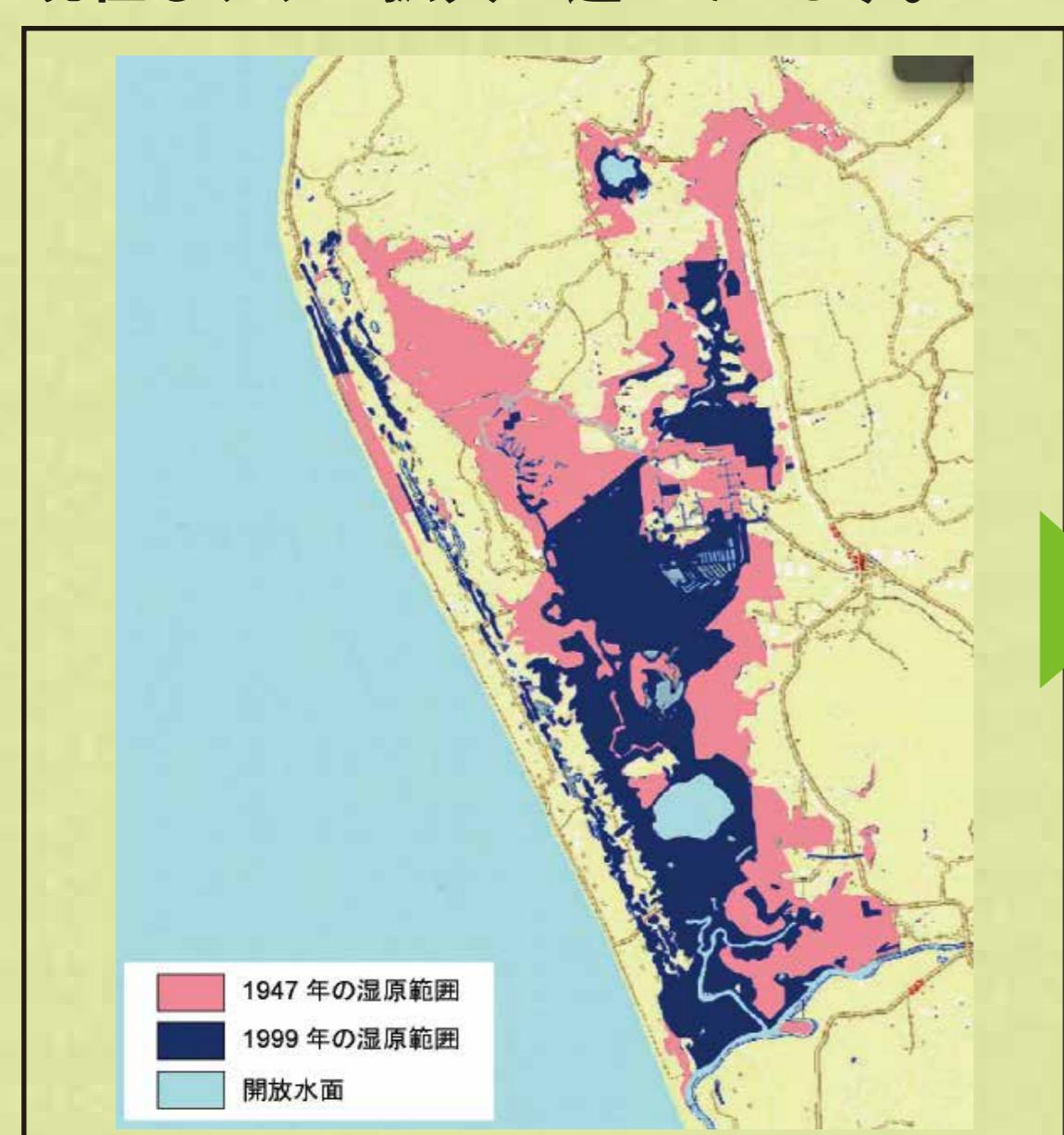
湿原の自然再生と農業の振興、そして地域づくりを一体的に図ることを目的として、地域住民、NPO、地方公共団体、関係行政機関、専門家などで協議会をつくり、自然再生の取り組みを進めています。



● サロベツ湿原の課題

湿原の課題

サロベツ湿原では、昭和40年代以降の大規模開発の進展と共に湿原面積が減少し、現在もササの拡大が進んでいます。



1947年の時点では約15,000ha存在した湿原が、1999年に約6,700haまで減少しました。

農地 (牧草地)

- 排水不良により生産性が低下
- 不整地にトラクターがはまる等の事故

湿原

- 地下水位が下がり乾燥化が進行
- 本来の湿原植生が失われ、ササが拡大

農地と湿原が隣接していますが、望ましい地下水位が異なります。

地域にとってどちらも重要

II

両方が共存する方法が求められています

● サロベツのこれから

自然と人間の営みの共存を目指します。

農業の振興

共存

湿原の自然再生

自然再生の目標

- ① 湿原の自然再生
- ② 農業の振興
- ③ 地域づくり

● 環境省の取り組み

環境省では、景観として優れているばかりでなく、多様な動植物の生息地・生育地であるサロベツ湿原を保全・再生するために「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取り組んでいます。

- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策
- ・ササの侵入抑制対策
- ・サロベツ原生花園園地跡地の修復
- ・泥炭採掘跡地等の再生
- ・環境学習の推進

